

電とう

徳山の町に、電とうがついたのは今からおよそ五十年前の大正六年です。それまでは、あんどんや、ランプにたよっていた人たちは、いままでより明るくなった電とうのもとで、生活ができるようになりました。

ちかごろでは、けいこうとうも使われ、町の忠地には・ネオンや、凝とうがかがやき・あちらこちらに、がいとうもつけられ、夜を明るくしています。

電話

電話は、明治四十二年一月につきました

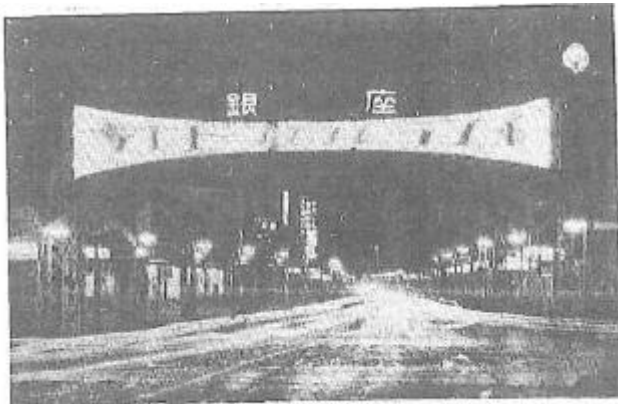


自動電話

はじめのうちは、おもだった役所だけでしたが、昭和二十四年には、電話のある家は、八百九十一、ほかに、公しゅう電話が五か所、三十一年には、千七百六十五、公しゅう電話は、九か所にふえてきました。

今では、電話は自動式にかわり、市内の電話は、ダイヤルをまわすだけで話ができるようになりました。山口県の内だけでなく、広島あたりとも、すぐに話ができるようになりました。

自動式になつた徳山市のでんわ
(昭和38年2月24日の資料から
自動電話



夜 の 徳 山

